

発表 24 曾根城公園とその周辺の井戸・池・河川の水位と水温の季節的動向

1. はじめに

本研究は大垣自噴帯の水環境の現状と特質を把握し、地域の生活環境の適正な保全と利用に資する水文誌に寄与することを目的とし、2024年秋季、北部の曾根城公園とその周辺で水文環境要素の現地調査を開始した。今回は現地調査着手から1年余りを経た時点までの知見を中間報告する。

2. 材料と方法

曾根城公園は大垣で最大の古大垣輪中堤に隣接し、約 6,200m² の曾根の池を含む約 21,800m² の街区公園（都市公園）である。付近は戦国時代の城跡で、釣りができる曾根の池、芝生広場、花菖蒲園、大垣市天然記念物指定種・ハリヨの池、自噴井等がある。輪中堤に桜並木・サイクリング道があり、堤外縁を揖斐川支川の平野井川が南流する。

当公園とその周辺の井戸・池・河川に水文環境要素を毎月巡回し測定・観察する定点を設定した（図1）。今回は2024年11月から2026年1月までの水位、水温の時系列データの相互関係を検討し季節的動向を考察した。

3. 結果と考察

主な地点の水温と近傍の日降水量の推移を図2に示した。自噴井「福水」の水温は12~13℃の範囲で推移し、他の深井戸水温の変動幅はそれより大きく、上層帯水層からの揚水を示唆した。

野田賢司（愛知大学総合郷土研）

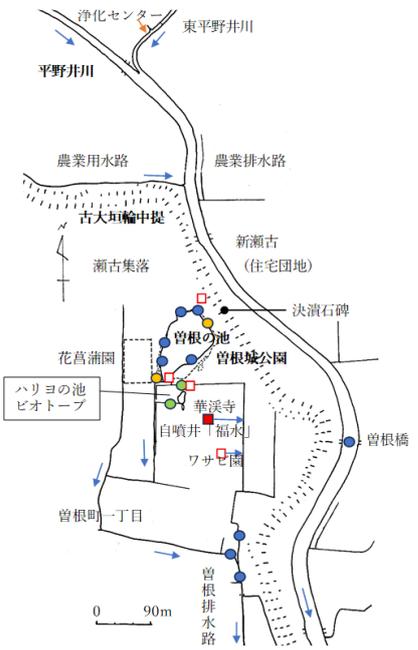


図1 調査位置 ●：定点、□：深井戸

曾根町東部排水路の主水源は自噴井（福水、ワサビ園）で、曾根町中央排水路の主水源は深井戸揚水による曾根の池とハリヨの池の流出水で、夏季の一時期には農業用井戸の補給水も加わる。水温の季節変動幅は平野井川より小さい。曾根の池は深井戸揚水で水位がほぼ一定に維持され、水温変動も小さい

が、夏季表層水温は27℃付近まで昇温した。平野井川は側壁・河床の湧水、農業用排水、浄化センター処理排水を集め、水温季節変動幅を大きくしている。ハリヨの生息環境は人為的に狭い範囲に限定されている。今後は池の水温構造の把握も目指して現地調査を続けたい。

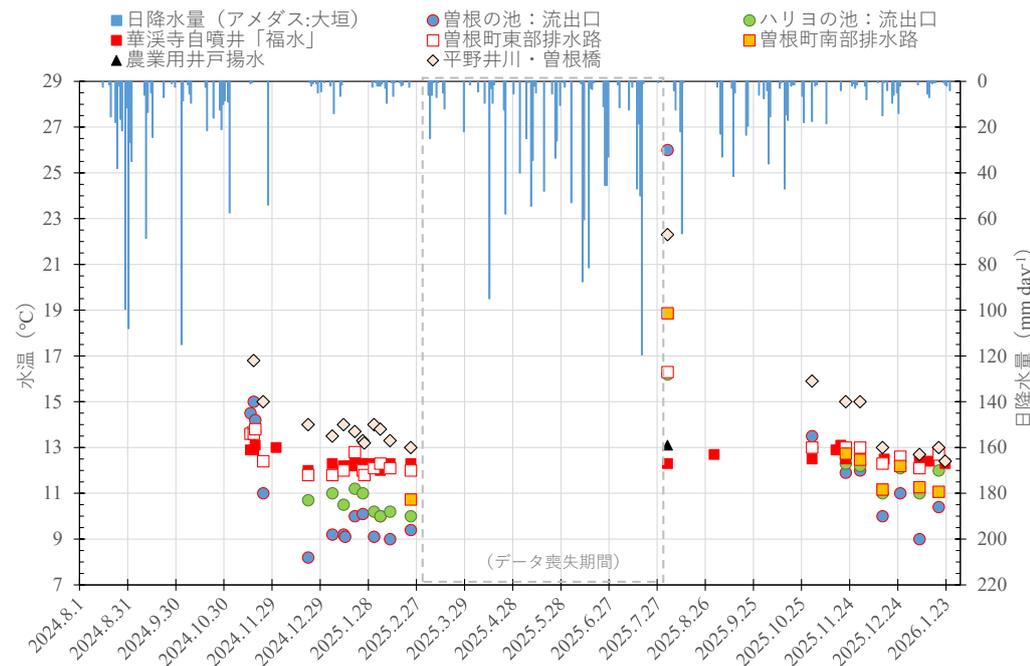


図2 主な地点の水温と日降水量（気象庁 DATA）の推移